

シラバス(授業計画)

SYLLABUS

令和3年度



関西看護医療大学大学院
看護学研究科

目 次

■カリキュラム表	1
----------------	---

■シラバス

共通専門科目

看護理論	6
研究方法論	7
看護診断学	8
看護教育論	9
看護管理学	10
看護政策論	11
コンサルテーション論	12

共通基礎科目

倫理学	13
社会学	14
臨床心理学	15
保健統計学	16

専門科目

慢性看護学分野

慢性看護学特論Ⅰ	17
慢性看護学特論Ⅱ	18
慢性看護学演習Ⅰ	19
慢性看護学演習Ⅱ	20
慢性看護学セミナー	21
慢性看護学実習	22

地域看護学分野

地域看護学特論Ⅰ	23
地域看護学特論Ⅱ	24
地域看護学演習Ⅰ	25
地域看護学演習Ⅱ	26
地域看護学セミナー	27
地域看護学実習	28

母性看護・助産学分野

母性看護・助産学特論Ⅰ	29
母性看護・助産学特論Ⅱ	30
母性看護・助産学演習Ⅰ	31
母性看護・助産学演習Ⅱ	32
母性看護・助産学セミナー	33
母性看護・助産学実習	34

高度実践助産師養成コース

生殖機能論	35
助産学概論	36
助産文化・国際論	37
助産教育論	38
母子家族論	39
母子保健行政論	40
助産診断・技術学特論Ⅰ（妊娠期）	41
助産診断・技術学演習Ⅰ（妊娠期）	42
助産診断・技術学特論Ⅱ（分娩期）	43
助産診断・技術学演習Ⅱ（分娩期）	44
助産診断・技術学特論Ⅲ（産褥期・育児支援）	45
助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥期・育児支援）	46
地域母子保健診断	47
助産管理	48

助産学実習	49
-------	----

助産管理実習	50
--------	----

看護学特別研究	51
---------	----

関西看護医療大学大学院カリキュラム

(2016年度)

(看護学研究科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		卒業要件	年次配当				
			必修	選択		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	
共通専門科目	看護理論	1 前	○		必修 6 単位	2				
	研究方法論	1 前	○			2				
	看護診断学	1 前	○			2				
	看護教育論	1 通		○	選択 4 単位	2				
	看護管理学	1 通		○		2				
	看護政策論	1 通		○		2				
	コンサルテーション論	1 通		○		2				
	病態生理学	1 通		○		2				
臨床薬理学	1・2 通		○	2						
倫理学	1 通		○	2						
基礎科目	社会学	1・2 通		○	2					
	臨床心理学	1 通		○	2					
	保健統計学	1・2 通		○	2					
小計（共通科目）						6	14	0	6	
専門科目	慢性看護学分野	慢性看護学特論Ⅰ	1 通	○	必修14単位 + 選択 4 単位 ※慢性分野	2				
		慢性看護学特論Ⅱ	1 通	○		2				
		慢性看護学演習Ⅰ	1 通	○		2				
		慢性看護学演習Ⅱ	1 通	○		4				
		慢性看護学セミナー	1 通	○		4				
		慢性看護学実習	1 後			○		4		
	計					0	18	0	0	
	地域看護学分野	地域看護学特論Ⅰ	1 通	○	必修14単位 + 選択 4 単位 ※地域分野	2				
		地域看護学特論Ⅱ	1 通	○		2				
		地域看護学演習Ⅰ	1 通	○		2				
		地域看護学演習Ⅱ	1 通	○		4				
		地域看護学セミナー	1 通	○		4				
		地域看護学実習	1 後			○		4		
	計					0	18	0	0	
	母性看護・助産学分野	母性看護・助産学特論Ⅰ	1・2 通	○	必修14単位 + 選択 4 単位 ※母性助産分野	2				
		母性看護・助産学特論Ⅱ	1・2 通	○		2				
		母性看護・助産学演習Ⅰ	1・2 通	○		2				
		母性看護・助産学演習Ⅱ	1・2 通	○		4				
		母性看護・助産学セミナー	1・2 通	○		4				
		母性看護・助産学実習	1・2 通			○	4			
		計					0	0	0	18
		高度実践看護職養成コース	生殖機能論	1 前	○	必修10単位 ※母性助産分野	1			
			助産学概論	1 前	○		1			
			助産文化・国際論	1 前	○		1			
			助産教育論	1 前	○		1			
			母子家族論	1 前	○		1			
			母子保健行政論	1 前	○		1			
			助産診断・技術学特論Ⅰ（妊娠期）	1 前	○		1			
			助産診断・技術学演習Ⅰ（妊娠期）	1 前	○		2			
			助産診断・技術学特論Ⅱ（分娩期）	1 後	○			1		
計					9	1	0	0		
母性看護・助産学分野		助産診断・技術学演習Ⅱ（分娩期）	1 後	○	必修18単位 ※母性助産分野	2				
	助産診断・技術学特論Ⅲ（産褥期・育児支援）	1 後	○	1						
	助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥期・育児支援）	1 後	○	1						
	地域母子保健診断	1・2 通	○	1						
	助産管理	1 後	○			1				
	助産学実習	1・2 通	○	11						
	助産管理実習	2 前	○				1			
	計					0	5	1	12	
看護学特別研究		2 通	○	必修6単位	6					
小計（専門科目）						9	42	1	36	
合計（48科目）						15	56	1	42	

学 位 又 は 称 号	修士（看護学）
学位又は学科の分野	保健衛生学

卒業要件及び履修方法

修士（看護学）課程修了に必要な修得単位は30単位以上とする。慢性看護学分野、地域看護学分野、母性看護・助産学分野の各専門分野の中から履修科目を選び、特論4単位、演習6単位、セミナー4単位、看護学特別研究6単位の計20単位を修得する。高度専門看護職養成コースを選択した者にあつては実習4単位を履修する。各分野とも共通専門科目の必修6単位、共通専門科目と共通基礎科目の選択から4単位以上の計10単位以上を修得する。

なお、母性看護・助産学分野の高度実践看護職養成コース（助産師国家試験資格取得を含む）は、母性看護・助産学分野の特論4単位、演習6単位、セミナー4単位、看護学特別研究6単位の計20単位、共通専門科目の必修6単位、共通専門科目と共通基礎科目の選択から4単位以上の計10単位以上に加え、助産師国家試験資格取得科目の計28単位以上の計58単位以上を修得する。

1 学年の学期区分	2 期
1 学期の授業期間	15週
1 時限の授業時間	90分

関西看護医療大学大学院カリキュラム

(2017～2021年度院生)

(看護学研究科)

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数		卒業要件	年次配当					
				必修	選択		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期		
共通専門科目	看護理論		1 通	○		必修6単位	2					
	研究方法論		1 前	○			2					
	看護診断学		1 通	○			2					
	看護教育論		1 通		○	選択4単位	2					
	看護管理学		1 通		○		2					
	看護政策論		1 通		○		2					
	コンサルテーション論		1 通		○		2					
基礎科目	倫理学		1 通		○	選択4単位	2					
	社会学		1 通		○		2					
	臨床心理学		1 通		○		2					
	保健統計学	*	1 通		○		2					
小計（共通科目）							2	20	0	0		
専門科目	慢性看護学分野	慢性看護学特論Ⅰ		1 通	○	必修14単位 + 選択4単位 ※慢性分野	2					
		慢性看護学特論Ⅱ		1 通	○			2				
		慢性看護学演習Ⅰ		1 通	○			2				
		慢性看護学演習Ⅱ		1・2 通	○			4				
		慢性看護学セミナー		1・2 通	○			4				
		慢性看護学実習	☆	1・2 通			○	4				
	計							0	6	0	12	
	地域看護学分野	地域看護学特論Ⅰ		1 通	○	必修14単位 + 選択4単位 ※地域分野	2					
		地域看護学特論Ⅱ		1 通	○			2				
		地域看護学演習Ⅰ		1 通	○			2				
		地域看護学演習Ⅱ		1・2 通	○			4				
		地域看護学セミナー		1・2 通	○			4				
		地域看護学実習	☆	1・2 通			○	4				
	計							0	6	0	12	
	母性看護・助産学分野	母性看護・助産学特論Ⅰ		1・2 通	○	必修14単位 + 選択4単位 ※母性助産分野		2				
		母性看護・助産学特論Ⅱ		1・2 通	○			2				
		母性看護・助産学演習Ⅰ		1・2 通	○			2				
		母性看護・助産学演習Ⅱ		1・2 通	○			4				
		母性看護・助産学セミナー		1・2 通	○			4				
		母性看護・助産学実習	☆	1・2 通			○	4				
		計							0	0	0	18
		高度実践看護職業養成コース	生殖機能論	★	1 前	○	必修10単位 ※母性助産分野	1				
			助産学概論	★	1 前	○		1				
			助産文化・国際論	★	1 通	○		1				
			助産教育論	★	1 前	○		1				
			母子家族論	★	1 前	○		1				
			母子保健行政論	★	1 前	○		1				
助産診断・技術学特論Ⅰ（妊娠期）			★	1 前	○	1						
助産診断・技術学演習Ⅰ（妊娠期）			★	1 前	○	2						
助産診断・技術学特論Ⅱ（分娩期）	★		1 通	○	1							
計							8	2	0	0		
母性看護・助産学分野	助産診断・技術学演習Ⅱ（分娩期）	★	1 通	○	必修18単位 ※母性助産分野	2						
	助産診断・技術学特論Ⅲ（産褥期・育児支援）	★	1 通	○		1						
	助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥期・育児支援）	★	1 通	○		1						
	地域母子保健診断	★	1・2 通	○		1						
	助産管理	★	1・2 通	○		1						
	助産学実習	★	1・2 通	○		11						
	助産管理実習	★	2 通	○		1						
	計							0	4	0	14	
	看護学特別研究			1・2 通	○	必修6単位		6				
	小計（専門科目）							8	18	0	56	
合計（46科目）							10	38	0	62		

学 位 又 は 称 号	修士（看護学）
学位又は学科の分野	保健衛生学

大学院看護学研究科修了要件

修士（看護学）課程修了に必要な修得単位は30単位以上とする。

各分野とも共通専門科目の必修6単位、共通専門科目と共通基礎科目の選択から4単位以上の計10単位以上を修得するとともに、選択した専門分野に応じて、それぞれの専門分野の特論4単位、演習6単位、セミナー4単位、看護学特別研究6単位の計20単位を修得する。

また、教育者・研究者コースを選択した者にあつては、共通基礎科目にある「保健統計学(*) 2単位」を必修選択する。高度専門看護職養成コースを選択した者(*助産師国家試験資格修得コースは除く)にあつては、各専門分野の「実習(☆) 4単位」を30単位に加えて必修選択する。

母性看護・助産学分野の高度実践看護職養成コースのうち助産師国家試験資格取得コースを選択した者にあつては、修了に必要な30単位以上と「助産師国家試験資格取得科目(★)」の計28単位を加えて計58単位以上を修得する。

1 学年の学期区分	2 期
1 学期の授業期間	15 週
1 時限の授業時間	90 分

授 業 科 目 名	看護理論				
担 当 教 員	◎ 小平 京子、江川 隆子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	看護学の哲学・倫理・教育・実践の基礎となる看護理論の分析と背景理論について探求する。さらに看護介入等に関する諸理論について研究論文を通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 回 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	看護理論の意義と歴史的変遷 看護理論の構造、構成要素および概念 主な看護理論家の理論と理論分析の視点 理論分析の例（ナイチンゲール看護論およびオレムセルフケア不足理論について） 学生が選択した看護論のプレゼンテーション① 同上② 疾病予防行動や健康行動、慢性疾患患者の自己管理行動、ケア技術に関わる中範囲理論 中範囲理論および中範囲理論を活用した研究論文の講読① 同上② 同上③ 同上④ 学生が選択した中範囲理論についての解説・適応例についてのプレゼンテーション① 同上② 同上③ 同上④			
成績評価の方法	課題レポート（看護論、中範囲理論）60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
履修にあたっての留意点	論文講読と選択した論文のプレゼンテーションを行う。発表内容のハンドアウトを参加人数分準備する。課題レポートを作成する。レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。				
備 考	アン・マリナー・トメイ, マーサ・レイラ・アリグット (2002)/都留伸子 監訳 (2004) 看護理論家とその業績 第3版, 医学書院. その他、必要な文献はその都度提示する。				

授 業 科 目 名	研究方法論				
担 当 教 員	◎ 小平 京子、神谷 千鶴				
履 修 学 年	1 年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	人間の健康に関する課題を科学的・体系的に解明するための看護研究方法論について探求する。看護研究の意義、研究目的の明確化、方法論の選定、計画の立案、実施方法、結果の分析、考察に至る研究プロセスについて研究論文を通して探求する。また、臨床研究についても探求する。さらに、学生が選択した看護学分野における研究課題を明らかにし、研究計画書を立案するための方法を研究論文のレビューを通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 5 回	看護における研究の意義と実践への応用 研究のプロセス 研究課題と目的、文献検討 研究デザインと倫理			
	第 6 ～ 10 回	量的研究（調査研究と実験研究・介入研究） 標本抽出、測定の方法と方略 結果の解釈と論文作成 論文クリティークと活用（サブストラクション）			
	第 11 ～ 15 回	質的研究 研究プロセスと倫理的問題 面接と参加観察 質的研究の方法（エスノグラフィー、グラウンデッドセオリー、現象学的アプローチ、アクションリサーチ、質的記述的研究）、事例研究等 データ分析とまとめ、信用性・確実性の確保 論文クリティークと活用			
成績評価の方法	論文のクリティークのレポート 60%、プレゼンテーション等 40%				
履修にあたっての留意点	受講に当たっては、参考文献を熟読し、不明な点を明らかにしておく。各学生の研究課題に係る論文を選択し、論文の研究課題に関するクリティークとその内容のハンドアウトを参加人数分準備する。				
備 考	参考文献 1. D.F. ポーリット ,C.T. ベック（2004）近藤潤子 監訳 (2010) 看護研究 原理と方法 第2 版, 医学書院. 2. ホロウェイ, ウィラー（2002）野口美和子 監訳（2006）ナースのための質的研究入門, 医学書院. 3. 坂下玲子他（2016）看護研究, 医学書院, 東京.				

授 業 科 目 名	看護診断学				
担 当 教 員	◎ 江川 隆子、笠岡 和子、神谷 千鶴				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必須	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	高度先進医療および在宅医療における患者の看護上の問題を含め、看護診断の開発について文献を通して探究する。さらに、各々の研究における「概念」について、文献を通して探究し、概念分析の論文を作成する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 2 回 第 3 ～ 6 回 第 6 ～ 10 回 第 10 ～ 15 回	以下の内容について、文献レビューおよびディスカッションを通して学ぶ。 ●各看護領域におけるクライアントの身体・心理・社会的な看護診断とその背景理論、および看護診断とその介入方法論について ●各々の看護研究の臨床疑問および研究疑問を確認し、研究のキー概念を明確にする ●研究のキー概念およびその介入方法にいて文献を用いて検討し、概念分析する ●その研究のキー概念、および介入について概念分析として論文にまとめる			
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
履修にあたっての留意点	論文講読と選択した論文のプレゼンテーションを行う。発表内容のハンドアウトを参加人数分準備する。課題レポート（概念分析）を作成する。				
備 考	テキスト ・日本看護診断学会監訳 (2012)：NANDA－I 看護診断 定義と分類，医学書院． ・中木高夫／川崎修一 訳（2008）：看護における理論構築の方法，医学書院．				

授 業 科 目 名	看護教育論				
担 当 教 員	◎ 奥津 文子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	看護教育制度と看護教育課程の変遷、看護カリキュラムの作成過程における教員の役割を学び、現行の看護教育の問題や今後の課題について検討する。その上で、教授・学習過程における基本的な学習理論、教育指導の方策、教育評価の基礎的知識を修得する。また、クライアント及び家族に対する教育指導法に関する理論を学習した上で、慢性疾患患者や高齢者らの問題を解決するための、介入指導計画の立案から評価にいたるプロセスを展開する。臨床のケアチームが効率的に機能するためのリーダーシップ理論やマネジメント理論を学習し、チームリーダーや臨床実習指導者としての役割について探求する。特に臨床における教育については、臨床教育の実践者より修得する。				
授 業 の 内 容	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 1 0 回 第 1 1 回 第 1 2 回 第 1 3 回 第 1 4 回 第 1 5 回	1．看護教育制度と看護教育課程の変遷を理解する。 2．現行制度・教育課程の課題を考察する。 3．看護カリキュラムの内容抽出と構築方法を理解する。 4．教育指導の方策（指導計画・指導案の作成）を理解する 5．指導計画の立案 6．指導案の立案 7．指導案に基づいた指導の展開（演習） 8．指導案に基づいた指導の展開（演習） 9．基本的な学習理論：古典的学習理論 10．基本的な学習理論：社会的学習理論 11．基本的な学習理論：アンドロゴジー 12．基本的な学習理論：健康行動理論 13．指導目標と評価内容・方法 14．事例に基づく介入指導計画立案と評価 15．リーダーシップ理論およびマネジメント理論 チームリーダーや臨床実習指導者としての役割			
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
履修にあたっての留意点	論文講読と選択した論文のプレゼンテーションを行う。発表内容のハンドアウトを参加人数分準備する。課題レポートを作成する。				
備 考	必要な文献はその都度提示する。				

授 業 科 目 名	看護管理学				
担 当 教 員	◎箕浦 洋子、餅田 敬司				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	看護管理に関する基本的な理論を学習し、看護管理の可能性と展望についての理解を深める。また、看護実践、看護管理、看護研究の連携の重要性を理解し、実践場面を捉え、変革につながる戦略的思考について研究論文や実践事例を通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 回 ガイダンス、看護管理学概論： 第 2 回 看護管理の基礎的理論とプロセス：マネジメントのプロセス ：変革理論 など 第 3 回 組織論：組織行動と組織文化 第 4 回 看護管理者の倫理：倫理課題とその対応 第 5 回 課題のプレゼンテーションと意見交換 第 6 回 人材育成管理：看護師のキャリア開発の現状と課題 第 7 回 人材育成管理：医療施設における看護の人的資源管理 看護サービス管理：医療・看護の質保証と評価・改善 第 8 回 看護サービス管理：医療・看護の質保証と評価・改善 第 9 回 課題のプレゼンテーションと意見交換 第 10 回 看護サービス管理：安全と質保証 第 11 回 組織におけるセーフティマネジメント 医療事故防止とノンクリティカルスキル 第 12 回 課題のプレゼンテーションと意見交換 第 13 回 経営資源管理：診療報酬制度と介護保険制度 第 14 回 経営資源管理：看護における情報管理、AI（人工知能）と質管理 第 15 回 課題のプレゼンテーションと意見交換				
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
履修にあたっての留意点	論文講読と選択した論文のプレゼンテーションを行う。発表内容のハンドアウトを参加人数分準備する。課題レポートを作成する。				
備 考	必要な文献はその都度提示する。				

授 業 科 目 名	看護政策論				
担 当 教 員	◎ 伊木 智子、高鳥毛 敏雄、川崎 裕美				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	日本および欧米における看護を取り巻く医療政策の変遷と現状を分析し、政策決定過程で活用される理論やモデルを修得する。また看護に係る政策改変および決定過程への介入の必要性和その方法を探求する。日本と欧米における看護を取り巻く医療政策の変遷と現状については、医療政策の専門家より修得する。				
授 業 の 内 容	第 1 回	看護を取り巻く医療政策の変遷と現状分析			
	第 2 ～ 5 回	日本および欧米における医療政策や医療制度の変遷			
	第 6 ～ 8 回	都道府県行政における医療及び看護政策の現状と課題			
	第 9 ～ 12 回	政策決定プロセスの事例検討を通して、看護政策立案に必要なリファレンス能力、エビデンスの活用法およびマネジメント力、活用のための手法と評価法			
	第 13 ～ 15 回	政策決定とその活用に係る理論や理論策定過程、およびその評価とまとめ			
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
履修にあたっての留意点	論文講読と講義内容に関するディスカッションを行う。 それらの結果を課題レポートにまとめる。				
備 考	必要な文献はその都度提示する。				

授 業 科 目 名	コンサルテーション論														
担 当 教 員	◎ 菅 佐和子、大北 正三														
履 修 学 年	1 年（通年）														
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義										
授 業 の 目 標	コンサルテーションの基本概念を踏まえながら、高度看護専門職としてコンサルテーションを実践するために必要な理論および役割機能を学習する。 (第1回～第10回)コンサルテーションの基本概念を学び、事例理解およびコミュニケーション能力に磨きをかける。実践に際しての方針と介入技法を学ぶ。 (第 11 回～第 15 回) CNS によるコンサルテーションの基本概念を学ぶ。実際のコンサルテーションから学びを深め、実践に際しての方針と留意点を学ぶ。														
授 業 の 内 容	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回	第 11 回	第 12 回	第 13 回	第 14 回	第 15 回
	コンサルテーションの基本概念・定義 コンサルテーションの場と対象 コンサルテーションの基本となる事例理解① ロールプレイ① コンサルテーションの基本となる事例理解② ロールプレイ② コンサルテーションの基本となる事例理解③ ロールプレイ③ コンサルテーションの方針と実践の試み まとめ CNS によるコンサルテーションの基本概念① CNS によるコンサルテーションの基本概念② CNS によるコンサルテーションの実践① CNS によるコンサルテーションの実践② CNS によるコンサルテーション：文献から学ぶ														
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%														
履修にあたっての留意点	論文講読と講義内容に関するディスカッションを行う。 それらの結果を課題レポートにまとめる。														
備 考	必要な文献はその都度提示する。														

授 業 科 目 名	倫理学				
担 当 教 員	◎ 山本 道雄、梶山 紀子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	看護倫理の大前提である現代バイオエシックスの成立背景とその基本的思考を講義する。さらに主要な規範倫理思想の幾つかについて、現代バイオエシックスとの関わりを念頭におきながら、歴史的および理論的考察をする。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 5 回	現代バイオエシックスの成立をニュルンベルク綱領から「医療倫理の4原則」成立までたどる。			
	第 6 ～ 10 回	現代バイオエシックスと規範倫理学諸学説について			
	第 11 ～ 15 回	臨床看護における倫理的課題や倫理的判断について、事前に提出された事例を通して分析考察する。患者と家族に寄り添い看護を主体的に実践する中で、看護管理者としての倫理的判断と部下の倫理観の育成についても考察する。			
成績評価の方法	課題レポート100%（山本） 事例の分析と考察、討議と参考文献の活用等により、明確になった課題（梶山）				
履修にあたっての留意点	講義主体とする。（山本） 事例に基づき参考文献等を活用して討議し考察を深める。（梶山）				
備 考	必要な文献はその都度提示する。				

授 業 科 目 名	社会学				
担 当 教 員	◎ 西村 由実子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	デュルケム、マックス・ウェーバー、パーソンズといった古典的な社会学の諸理論と社会調査法の基礎を学んだ上で、「医療社会学」の歴史的展開を鑑み、保健医療の分野における、医療化、病人役割、病気行動、医療者－患者関係などについて理解する。さらに、家族と国際社会における諸課題を取り上げ、保健医療に関連する多様な課題を探究するための社会的素養を身につける。				
授 業 の 内 容	第 1 回	ガイダンス／パラグラフ・ライティングの方法			
	第 2 回	社会学の基礎概念・理論と方法			
	第 3 回	社会調査法（1）			
	第 4 回	社会調査法（2）			
	第 5 回	社会調査法（3）			
	第 6 回	社会調査法（4）			
	第 7 回	「医療社会学」の歴史と医療化			
	第 8 回	病人役割と病気行動			
	第 9 回	医療者－患者関係			
	第 10 回	「家族社会学」の推移			
	第 11 回	家族の形態と機能			
	第 12 回	ジェンダーとセクシュアリティ			
	第 13 回	「国際社会学」国民国家とグローバル化社会			
	第 14 回	人口問題と地球規模諸課題			
	第 15 回	各自の課題レポート発表とまとめ			
成績評価の方法	課題レポートと発表（50%）、ブックレポート（40%）、授業・討論への参加（10%）				
履修にあたっての留意点	講義で学ぶ理論や方法論をふまえて、各自が取り組みたい課題についての発表とレポート作成を行う。レポートは初回に話すパラグラフ・ライティングの方法ののっとして書いてください。				
備 考	ブックレポートと講義内容の参考文献リストは初回ガイダンスで配布する。 教員の連絡先：y.nishimura@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	臨床心理学				
担 当 教 員	◎ 菅 佐和子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	高度先進医療化に伴い、医療および看護領域において、心理的ケアの必要性が急速に高まっている。本科目では、医療・看護場面で臨床心理学をどのように活用し実践に繋げるかについて学ぶ。 「見立て」と「心理的ケア」の力量を高めるため、カウンセリングの理論と技法を身に着ける。事例研究論文の熟読・討論を通して、事例理解を深める。看護カウンセリングの着眼点・特性への理解を深める。				
授 業 の 内 容	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 1 0 回 第 1 1 回 第 1 2 回 第 1 3 回 第 1 4 回 第 1 5 回	臨床心理学とはどのような学問であるか 臨床心理学の諸理論を学ぶ 事例研究論文の熟読・討論を通しての理解 事例研究論文の熟読・討論を通しての理解 見立てのための観察・面接・心理検査 カウンセリングの諸理論と技法① カウンセリングの諸理論と技法② カウンセリングの練習①ロールプレイング カウンセリングの練習②ロールプレイング 看護カウンセリングの着眼点と特性 看護カウンセリングの事例研究 非言語的心理療法を学ぶ①遊戯療法 非言語的心理療法を学ぶ②箱庭療法等 チーム医療の職種間連携に活かす臨床心理学 まとめ			
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
履修にあたっての留意点	授業への積極的な参加を重視する。 論文購読と講義内容に関するディスカッションを行う。 それらの結果を課題レポートにまとめる。				
備 考	必要な文献はその都度提示する。				

授 業 科 目 名	保健統計学				
担 当 教 員	◎ 高見 栄喜、古川 秀敏				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義・演習
授 業 の 目 標	地域、学校、職場の医療に関する文献と統計情報を収集・検索し、解析できる能力を修得する。具体的には、健康に関する統計的定義の理解、記述分析能力および健康に関する影響因子等について実態調査し意思決定に至る思考能力、根拠に基づいた公衆衛生看護活動、統計調査を内容に含む研究論文を作成できる能力を醸成する。また基本的な統計学に関する知識や技術、医療情報データベース検索法および情報処理の技術に関する知識について研究論文を用いて探求する。特に、高度な統計解析手法については、解析技術を有する専門家から修得する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 9 回	疫学的視点から健康に関する影響因子等についての調査方法や解析方法、及び基本的な統計的手法に関する理解を深め、医療文献と統計情報を収集・検索し、記述分析できる解析法			
	第 10 ～ 15 回	看護研究をまとめるために欠かせないデータ解析方法としての多変量解析などを含めた高度な統計解析手法			
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションの内容等 40%				
履修にあたっての留意点	論文講読と講義内容に関するディスカッションを行う。それらの結果を課題レポートにまとめて提出する。				
備 考	必要なテキストや文献等は その都度指示する。 教員の連絡先：h.takami@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	慢性看護学特論Ⅰ				
担 当 教 員	◎ 小平 京子、神谷 千鶴、下舞 紀美代				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	慢性病患者をもつ人を様々な健康状態の変化において包括的に理解するとともに、看護援助や看護技術の開発に必要な慢性病患者に関する主要概念と理論および介入に関する理論やモデルについて研究論文を通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 5 回	慢性病患者を看護学的視点から把握し、対象の適応能力や変革能力を高めるための看護援助モデルや評価能力の開発のための理論構築、および研究能力を開発するための技法 慢性病患者への看護介入に関する主要なモデルや関連する諸理論とその分析			
	第 6 ～ 10 回	慢性病患者を包括的に理解するための方法論としてのライフヒストリーとその分析方法			
	第 11 ～ 15 回	慢性病患者（糖尿病、腎不全、がん など）患者の生理、心理、社会的影響及び家族への影響に関するアセスメントの概念、看護診断とその背景理論および諸理論の臨床での介入における活用			
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションやディスカッション内容等 40%				
履修にあたっての留意点	方法は文献講読。各自テーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえでクリティーク所見を述べる。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取りあげたテーマについてレポートを作成する。レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。				
備 考	使用文献は、1 週間前に配布する。概説に用いるハンドアウトを準備する（A4 1 枚、パワーポイントでの概説も可能） 教員連絡先：k.kodaira@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	慢性看護学特論Ⅱ				
担 当 教 員	◎ 江川 隆子、小平 京子、神谷 千鶴				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	慢性病をもつ人やその家族の看護上の問題（看護診断を含む）に対する看護治療および看護ケアの実践のための教育システムを開発するための諸理論を探究する。さらに、それらの看護に係る患者教育および看護者の教育システムの開発に必要な組織改革と開発のために、組織分析・システム分析に関する主要概念と諸理論について研究論文を通して探究する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 2 回	慢性病をもつ人への看護実践のための組織と教育システムの開発に関する主要概念と諸理論			
	第 3 ～ 8 回	慢性病、主に糖尿病患者の看護に係る看護者の教育システムおよび患者教育システムに関する組織分析、システム分析			
	第 9 ～ 12 回	慢性病、主に腎不全患者の看護に係る看護者の教育システムおよび患者教育システムに関する組織分析、システム分析			
	第 13 ～ 15 回	慢性病をもつ人の家族の看護に係る看護者の教育システムおよび患者教育システムに関する組織分析、システム分析			
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションやディスカッション内容等 40%				
履修にあたっての留意点	方法は文献講読。各自取り上げるテーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえで自分のクリティーク所見を述べる。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取り上げたテーマについてレポートを作成する。レポートは提出後の確認を受けたのちに必要に応じて追加修正し再提出する。				
備 考	使用文献は、1 週間前に配布する。概説に用いるハンドアウトを準備する（A4 版1枚、パワーポイントでの概説も可能） 教員連絡先：tegawa@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	慢性看護学演習 I				
担 当 教 員	◎ 小平 京子、江川 隆子、神谷 千鶴				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・60 時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	慢性看護学特論Iをふまえ、慢性病患者をもつ人およびその家族の行動や反応に関する諸理論や主要概念の分析とその方法について、学生個々の研究課題にそって研究論文を通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 10 回	慢性病患者をもつ人のアセスメント方法およびその分析に係る諸理論やナラティブアプローチ			
	第 11 ～ 26 回	慢性病患者をもつ人の行動や反応に関する概念分析とその方法			
	第 27 ～ 30 回	慢性病患者をもつ人、特にその家族に関するアセスメント方法およびその分析に関する諸理論と方法			
成績評価の方法	課題レポート 60%（対象とした人のライフヒストリーの分析、フィジカルアセスメント結果）、プレゼンテーションやディスカッション内容等 40%				
履修にあたっての留意点	方法は文献講読。各自取り上げるテーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえで自分のクリティーク所見を述べる（30 分）。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取り上げたテーマについてレポートを作成する。レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。				
備 考	使用文献は、1 週間前に配布する。概説に用いるハンドアウトを準備する（A4 版 1 枚、パワーポイントでの概説も可能） 教員連絡先：k.kodaira@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	慢性看護学演習Ⅱ				
担 当 教 員	◎ 小平 京子、神谷 千鶴				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	4単位・120 時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	慢性看護学特論Ⅱをふまえ、慢性病をもつ人の看護上の問題（看護診断を含む）に対する看護治療および看護ケアの実践のための教育システムの具体的な開発過程について探求する。さらにそれらの人々の療養生活の質の向上のための組織改革や医療改革の開発過程について研究論文を通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 30 回	慢性病（特に糖尿病、腎不全、がん患者 等）に関する組織改革や患者教育システム、看護師の教育システムの開発過程			
	第 31 ～ 60 回	学生個々の看護の関心領域または研究課題に係る組織やシステム分析の実践			
成績評価の方法	課題レポート（組織・システム分析）60%、プレゼンテーションやディスカッション内容等 40%				
履修にあたっての留意点	方法は文献講読および組織・システム分析の実践。各自取り上げるテーマに即した文献を講読し、内容の概説をしたうえで自分のクリティーク所見を述べる（30 分）。その後参加メンバーによる意見交換を行う。必要時文献を提示する。プレゼンテーション後取り上げたテーマについてレポートを作成する。組織・システム分析は参加観察などを通して行う。分析結果をレポートにまとめる。レポートは提出後の確認を受けたのち必要に応じて追加修正し再提出する。				
備 考	使用文献は、1 週間前に配布する。概説に用いるハンドアウトを準備する（A4 版 1 枚、パワーポイントでの概説も可能） 教員連絡先：k.kodaira@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	慢性看護学セミナー				
担 当 教 員	◎ 小平 京子、江川 隆子、神谷 千鶴、笠岡 和子、山本 道雄、栗井 光代				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	4単位・120 時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	特論および演習を通して得た知識や技術をもとに、学生の研究課題にかかわる看護援助モデルや評価モデル、教育システムモデルなどの検討を深めるために、慢性疾患の専門外来などで参加観察やプレテストを通してその能力を修得する。さらに、学生の研究課題に沿った研究計画を検討する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 40 回	慢性病の看護領域のフィールド（糖尿病・腎不全・がん など）において、文献と経験を通して検討した看護介入モデルや組織・教育システムについての、参加観察やプレテストの実施、およびそれらの開発に係る修正とモデル作成の検討 学生の研究課題に沿った研究計画のプレゼンテーションとディスカッション			
	第 41 ～ 50 回	学生の研究課題に沿った最新の海外文献の検討（講読およびプレゼンテーション）			
	第 51 ～ 60 回	研究論文の記述方法とその技術の実践			
成績評価の方法	課題レポート（研究課題に係る患者や家族のライフヒストリーの分析、フィジカルアセスメント結果、研究課題に係る組織・システム分析）および海外文献の講読結果のレポートの提出とプレゼンテーション 60%、研究計画プレゼンテーション 40%				
履修にあたっての留意点	プレテストや参加観察は、目的や方法を明確にしたうえで計画を立案し指導教員に提出する。それらを基にした学生相互のディスカッションを通して、研究課題を明確にし、研究計画立案に反映する。ディスカッション後レポートを作成する。海外文献の講読レポートについては担当教員の指示に従う。				
備 考	プレゼンテーションに用いるハンドアウトを準備する（A4 版 2 枚、パワーポイントでの概説も可能） 教員連絡先：k.kodaira@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	慢性看護学実習				
担 当 教 員	◎ 小平 京子、江川 隆子、奥津 文子、神谷 千鶴、笠岡 和子、下舞 紀美代				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	4単位・120 時間	授 業 形 態	実習
授 業 の 目 標	学生の研究課題に係る関連病院において、教員及び専門看護師等と協働し、研究課題に沿って、患者のライフヒストリーの聴取や分析、フィジカルアセスメントを実施し、健康の回復に影響する因子を明らかにしたうえで、看護介入とその有効性を検証する。さらには、有効な看護介入のために開発した組織や教育システムを実践し、その有効性を検証する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 60 回	1) 各自の研究課題に係る実践の検証が可能な医療施設等において、有効な看護介入のために開発し慢性看護学セミナーで修正した組織や教育システム（モデル）、あるいは患者教育等の看護介入（モデル）に基づいた実践を、専門看護師などの指導者や教員の指導を受けながら行う。 2) 実践内容とその有効性についてレポートにまとめ、プレゼンテーションでのディスカッションや教員・指導者の指導を受けて、開発した組織や教育システム（モデル）、看護実践（モデル）を修正する。			
成績評価の方法	実習についてのレポート 60%、指導看護師を交えたカンファレンスにおける評価 20%、実習内容、ディスカッション等 20%				
履修にあたっての留意点	実習の目的・目標・方法等の計画を立案し、事前に指導教員のコメントを受ける。実習施設における連絡・調整を積極的に行う。実習内容については、臨床の指導者より指導を受ける。研究課題に関するレポート作成する。				
備 考	プレゼンテーションに用いるハンドアウトを準備する（A4 版 2 枚、パワーポイントでの概説も可能） 教員連絡先：k.kodaira@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	地域看護学特論Ⅰ				
担 当 教 員	◎ 伊木 智子、古川 秀敏、菅 佐和子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	現象や状況に関するリサーチエビデンスを駆使したケアを実践できる能力を養うために、地域看護学の基本的かつ主要な概念であるヘルスプロモーションの概念分析・理論について国内外の文献を用いて探究する。また、ヘルスプロモーションの考えに基づく地域看護活動の効果的な支援方法の開発と評価について研究論文を通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 8 回	我が国及び諸外国におけるヘルスプロモーションの概念に関する国内外の文献レビューをもとに、ヘルスプロモーション活動の現状を分析し、課題を検討し地域看護活動との関連を考察する。さらに、地域看護診断と健康課題との関連を構造的にとらえ、地域における生活習慣病・介護予防に関するヘルスプロモーションのための地域看護活動の展開方法と技術開発を探究する。			
	第 9 ～ 14 回	地域住民のグループ育成やネットワーク構築について、ヘルスプロモーションの概念に基づいた地域看護活動の理論的枠組みを考察する。さらに、対象者理解のためのライフストーリーに関する基礎知識、方法論を探究する。			
	第 15 回	地域看護学に重要な発達理論およびライフサイクル・ライフステージに係る発達課題とヘルスプロモーションとの関連について考察する。			
成績評価の方法	課題レポートを 60%、授業への主体的参加を重視し、討論の準備、討論への参加、プレゼンテーションの内容を 40% として総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点	教授方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。				
備 考	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：tiki@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	地域看護学特論Ⅱ				
担 当 教 員	◎ 古川 秀敏、伊木 智子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	住民が自立した生活を送れることを支えるためのシステムを構築・改変する能力を養う。地域看護学における看護活動実践のための組織と教育システムに必要な組織力と看護援助能力を開発するために、組織分析・システム分析に関する必要概念と理論を国内外の研究論文をとおして探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 6 回	地域ヘルスシステムと健康教育システムおよびそれらに係る看護者の教育システムの開発に必要な組織分析・システム分析に関する主要概念と理論について探求する。			
	第 7 ～ 11 回	高齢者を取り巻く保険医療福祉政策の現状と課題を多面的に理解し、退院支援や地域連携に関するシステムの構築およびそれに係る看護者の教育システムの開発に必要な組織分析・システム分析に関する主要概念と理論について探求する。			
	第 12 ～ 14 回	Community-Based Participatory Research(コミュニティを基盤とした参加型研究) や住民との協働による地域づくりの文献を用いて、地域住民のグループ育成やネットワーク構築の支援方法およびそれらに係るシステムの開発に必要な組織分析・システム分析に関する主要概念と理論について探求する。			
	第 15 回	地域看護学に重要な発達理論およびライフサイクル・ライフステージに係る発達課題とヘルスプロモーションとの関連について考察する。			
成績評価の方法	授業への主体的参加を重視し、討論の準備、討論への参加、プレゼンテーションの内容を総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点	教授方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。				
備 考	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：h.furukawa@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	地域看護学演習 I				
担 当 教 員	◎ 伊木 智子、古川 秀敏				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・60 時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	現象や状況を批判的に分析し、ケアを変革していく能力を養う。地域看護学特論 I で学んだことから、自分の関心のある分野を選択し、関心のある現象についての概念について文献レビューを通して探究する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 10 回	生活習慣病予防看護領域の国内外の文献レビューによる考察を深め、ライフヒストリーの分析をもとに予防的看護活動における学生自らの興味・関心のある研究に関連する概念や理論を探究する。			
	第 11 ～ 20 回	住民との協働による地域づくりにむけて、先行研究をふまえ、地域住民のグループ育成やネットワーク構築の支援方法を学び、学生自らの興味・関心のある研究に関連する概念や理論を探究する。			
	第 21 ～ 30 回	在宅における高齢者や家族、介護予防看護に関する国内外の文献レビューによる考察を深め、在宅看護や高齢者の介護予防看護領域において、学生自らの興味・関心のある概念や理論を探究する。			
成績評価の方法	課題レポートを 60%、授業への主体的参加を重視し、討論の準備、討論への参加、プレゼンテーションの内容を 40% として総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点	演習方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。				
備 考	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：tiki@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	地域看護学演習Ⅱ				
担 当 教 員	◎ 古川 秀敏、伊木 智子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	域看護学領域におけるシステム構築に関する主要な概念の分析と諸理論について事例分析と研究論文を通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 20 回	生活習慣病・介護予防を目的とした地域ケアシステム構築に関する研究のレビューを行う。地域ヘルスケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、組織分析のための計画の立案を行い、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。			
	第 21 ～ 30 回	高齢者やその家族に対する看護援助や高齢者ケアシステムの充実・発展、介護予防に関する地域ケアシステム構築に関する研究をレビューし、高齢者ケアシステム、介護予防に関する地域ケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。			
	第 31 ～ 40 回	住民との協働による地域ケアシステム構築に関する研究をレビューし、住民主体の地域ヘルスケアシステム構築に関する概念や理論をもとに、学生自身の関心領域における看護実践活動を通じた研究課題を探究する。			
	第 41 ～ 60 回	淡路地域で実践されている生活習慣病予防システム、住民主体の地域ヘルスケアシステム、高齢者ケアシステム、介護予防システムにおいて、行政機関に勤務する保健師など専門職及び事務職と共に、課題の抽出・分析、システムの改革・構築の試案を作成、実践・検証する。			
成績評価の方法	授業への主体的参加を重視し、討論の準備、討論への参加、プレゼンテーションの内容を総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点	教授方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を行動駆使、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。				
備 考	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：h.furukawa@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	地域看護学セミナー				
担 当 教 員	古川 秀敏、伊木 智子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	4 単位・120 時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	実践技術の研究・検証を理論開発につなげ、その領域の学問の基礎をつくる能力を養う。特論および演習で得た知識や技術を通して開発した組織やシステム、看護実践等の検証のために、地域や組織、チーム等において、実践的研究方法を修得する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 10 回	ライフヒストリーの分析、組織分析をもとに学生自らの興味・関心のある研究課題に関連する概念や理論を探究し、特に国外における英文献を中心に関連する概念や理論を探究する。			
	第 11 ～ 15 回	退院支援や地域連携に関するシステム構築において、看護援助モデルや組織、教育システムの開発と検証のために訪問看護ステーションや地域包括支援センターなどの地域組織、チーム等において、事例検討を通じて、参加観察型実習やプレテストの実施、およびそれらの開発に係る修正とモデル作成を行う。			
	第 16 ～ 40 回	生活習慣病・介護予防を目的とした地域ヘルスケアシステム構築において、開発した保健指導モデルや健康教育モデル、教育システムの開発と検証のために、地域組織、チーム等において、健康課題の抽出からヘルスケアシステムの構築につなげていく事例を通じて、参加観察型実習やプレテストの実施およびそれらの開発に係る修正とモデル作成を行う。			
	第 41 ～ 60 回	地域住民のグループ育成やネットワーク構築において、看護援助モデルや組織、教育システムについての参加観察型実習やプレテストの実施、およびそれらの開発に係る修正とモデル作成を行う。 *高度実践看護職コースは、地域看護活動において、リーダーとして必要な企画・調整機能・スタッフに対する相談・教育 機能及び実践的研究をする。 *教育者・研究者コースは、実践技術の研究・検証を理論開発につなげ、地域看護学領域の学問を体系的に探究する。			
成績評価の方法	授業への参加度、ディスカッション、プレゼンテーション、課題レポート等で総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点	教授方法は、文献講読で行う。教員が指定した文献を講読し、内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。				
備 考	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：h.furukawa@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	地域看護学実習				
担 当 教 員	◎ 伊木 智子、古川 秀敏				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	4単位・120時間	授 業 形 態	実習
授 業 の 目 標	学生の研究課題に係る自治体や地域看護専門看護師および慢性疾患看護専門看護師が勤務している訪問看護ステーション、保健福祉施設等において、教員や保健師、看護師、助産師他関連職種と協働し、開発した看護介入を実践し、その有効性を検証する能力を修得する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 60 回	（公衆衛生看護管理） 一つの行政地域を単位として地域診断を実施し、地域の活動計画、評価計画を立案する。それに基づいて保健事業プログラムを開発し、実践現場の保健師と共に効果的な事業の運営や管理を行い、公衆衛生看護管理に必要な実践能力やケア方法を開発する能力を培う。また、他機関や他組織との連携、ネットワーク形成などの現状と課題を分析し、望ましいケアシステム形成へ向けて調整する能力を修得する。 （在宅・老年看護学） 専門看護師が勤務する訪問看護ステーションで、在宅看護専門職に必要な高度な実践能力とケア開発能力、倫理的判断能力、教育、相談、調整に関する能力を培う。そのために、専門看護師と共に在宅生活の継続期、移行期にある複雑な問題を抱えた療養者を受け持ち、高度な看護実践を行う。また、チームアプローチの促進に向けて重要な課題である在宅ケアスタッフに関する教育、相談、他職種他組織との連携を行うことを中心としながら、問題解決していく能力を修得する。			
成績評価の方法	実習態度、実習内容、記録、カンファレンス、実習レポートを通して総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点					
備 考	教科書は特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。 教員の連絡先：tiki@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学特論Ⅰ				
担 当 教 員	◎ 宮本 政子、塩田 敦子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	現象や状況に関するリサーチエビデンスを駆使したケアを実践できる能力を養うために、ウィメンズヘルスにおける人間の反応や行動特性を説明する概念や諸理論について学び、国内外の文献を用いて探求する。 生殖に関する高度先端医療や高度生殖医療技術の最新の知識を学び、文献を用いて探究する。				
授 業 の 内 容	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 ～ 5 回 第 6 回 第 7 ～ 11 回 第 12 ～ 15 回	授業計画、ウィメンズヘルスに関連する人間の反応や行動特性を説明する概念や諸理論と研究との関連 母子関係の形成理論・ストレス理論 危機理論・エンパワメント理論 関連理論の研究への活用と内容（興味ある領域の文献検索と内容の整理 検索した文献の内容発表・討議 ウィメンズヘルスに関する疾患を持つ人を包括的に理解するためのライフヒストリーとその分析方法 （*慢性看護学特論Ⅰ：合同講義5回分） 遺伝と遺伝性疾患、出生前診断、生殖補助医療の実際、診断と治療、倫理・社会問題			
成績評価の方法	課題レポート 60%、授業への主体的参加を重視し、討論の準備、討論への参加、プレゼンテーションの内容を 40%として総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点	教授方法は、教員が理論や文献の紹介を行う。自ら関心あるテーマを選び文献を購読し内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第2巻 女性の健康とケア 日本看護協会出版会 助産学講座2 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学 医学書院 助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 教材、テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：m.miyamoto@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学特論Ⅱ				
担 当 教 員	◎ 曾我部 美恵子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	研究課題に関する組織分析とシステムとして構築・改変できる能力を養う。 ウィメンズヘルス、周産期にかかわる助産ケア実践のための組織改革や教育システムを開発するための主要概念と諸理論について論文を通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 5 回	研究課題に関する組織分析と目的、組織分析の視点と方法、システムとして構築・改変するための組織分析の概念と理論。 (慢性看護学特論I: 合同講義5回分)			
	第 6 ～ 15 回	周産期にかかわる院内助産システム（助産師外来を含む）の理論。 その他、産後ケアシステム、女性外来システム、地域包括支援システムなどの概念と理論。 *助産師活動にかかわる母性看護学および助産学の臨床における教育システムを開発するための主要概念と諸理論。			
成績評価の方法	課題レポート 60%、授業への主体的参加を重視し、討論の準備、討論への参加、プレゼンテーションの内容を 40%として総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点	研究課題におけるシステム、ウィメンズヘルス、周産期システム、教育システム、産後ケアシステムなど助産師活動に必要で関心があるシステムを選択する。 教授方法は、文献講読を行う。自己課題または教員が指定した文献を講読し内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行い、授業終了後にレポートを作成する。				
備 考	教材・テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学演習Ⅰ				
担 当 教 員	◎宮本 政子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2単位・60時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	現象や状況に関するリサーチエビデンスを駆使したケアを実践できる能力を養うために、母性看護・助産学特論Ⅰをふまえ、女性全般のウィメンズヘルスに関する人間の反応と行動特性に関する理論的根拠や実践を検証した研究結果（EBM）に関する国内外の文献のクリティークを通して、理論の適用やその効果の検証について探求する。さらに、大学院生の関心がある分野を選択し、関心のある現象や概念について国内外の文献レビューを通して探求する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 6 回	健康な女性またはウィメンズヘルスに関する疾患を持つ人を対象としたリサーチの目的と分析方法 ①文献レビュー、②調査研究、③介入研究、④実験研究⑤質的研究			
	第 7 ～ 10 回	ウィメンズヘルスに関する概念及び理論の適用と効果の検証 文献整理と発表（プレゼン）			
	第 11 ～ 30 回	ウィメンズヘルスにおける研究課題の探求 文献整理と研究課題の意義・内容の文章化（レポート作成）			
成績評価の方法	課題レポート 60%、授業への主体的参加を重視し、討論の準備、討論への参加、プレゼンテーションの内容を 40%として総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点	演習方法は、文献購読を行う。教員が指定した文献及び興味ある研究領域の文献を購読し内容をプレゼンテーションする。その後、参加メンバーによるディスカッションを行いレポートを作成する。				
備 考	教材・テキスト、その他、授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：m.miyamoto@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学演習Ⅱ				
担 当 教 員	◎曾我部 美恵子、尾筋 淑子、永峰 啓子、宮本 政子、岸田 佐智、瀧元 純子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	4 単位・120 時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	課題にかかわる組織分析やシステムとして構築・変革するための分析結果を記述する。 思春期、成熟期女性、中高年女性とその家族に対する助産ケアやソーシャルサポートに関する理論と、健康問題に対する健康教育、集団教育の演習を通してヘルスプロモーション向上のための知識と技術を学ぶ。 女性のライフサイクル全般におけるウィメンズヘルスの潜在的・顕在的な健康問題や高度生殖医療を受ける女性や家族の健康問題、家庭内暴力に対する支援や介入方法の知識や技術について研究論文を通して学ぶ。 研究課題に関する先行研究論文を記述する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 20 回	研究課題に関するシステムや周産期に関する組織分析の方法と分析結果の記述と発表。			
	第 21 ～ 38 回 (18 回) 第 39 ～ 46 回 (8 回)	<u>高度実践看護職養成コース</u> 思春期女性の健康と健康問題に対する集団教育、個別相談、健康教育に伴うヘルスプロモーション向上のための知識、技術の探究。 中高年女性の健康や更年期女性の健康問題に対する集団教育と個別相談、健康教育に伴うヘルスプロモーション向上のための知識、技術の探究。 *淡路地域における思春期女性から中高年女性の何れかを対象とした健康・健康問題へのヘルスプロモーションに関する課題や健康教育を実施、評価する。			
	第 47 ～ 48 回 (2 回) 第 49 ～ 50 回 (2 回) 第 51 ～ 60 回 (10 回)	不妊の悩みを持つ女性と家族に対する支援の理論と探求。 家庭内暴力を受けた女性の支援および家族への支援の理論と探求。 課題に関する先行研究論文の検討。			
	第 21 ～ 60 回	<u>教育者・研究者養成コース</u> 研究課題に係る助産ケア実践のための教育システムの開発過程に関する研究論文の検討。 研究課題に係る助産ケアの質の向上のための組織改革や医療改革の開発過程に関する研究論文の検討。 研究課題に係るシステムや組織分析の実践。			
	成績評価の方法	課題レポート 60%、授業への主体的参加を重視し、討論の準備、参加、プレゼンテーションの内容を 40%として総合的に評価する。			
履修にあたっての留意点	演習方法は文献講読。各自の課題の即した文献を講読し発表する。内容の概説をしたうえで分析結果を述べる。その後、参加メンバーによる意見交換を行う。発表後にとりあげたテーマについてレポートを作成する。				
備 考	教材・テキスト、参考書は授業の中で適時提示する。 教員連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学セミナー				
担 当 教 員	◎ 曾我部 美恵子、小笠原 百恵、谷川 裕子、夏目 奈緒子、宮本 政子、山本 道雄				
履 修 学 年	1・2 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	4 単位・120 時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	研究課題にかかわる英語文献購読をする。 特論および演習で得た知識や技術、組織分析の理論を通し、助産師活動に必要な支援を検討する。障がい児への育児支援、ペリネイタルロスの支援、海外在住日本人、在日外国人の母子支援、NICU に入院した児および家族への支援、助産マネジメントの視点の理解を深める。そのため施設において参加観察の助産演習を通してシステムの現状を把握し課題を検討する学びも導入する。 自己課題の開発に関わる助産援助モデルや評価モデル、教育システムモデル作成など先行研究をもとに分析し、研究計画を作成する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 10 回	研究課題に係る英語文献のクリティーク			
	第 11 ～ 18 回	<u>高度実践看護職養成コース</u> 障がい児の育児支援やペリネイタルロスの支援、母親およびその家族への支援を学ぶ。助産師として支援をするため参加観察の助産演習を通して障がい児の現状を把握し課題を検討する。			
	第 19 ～ 22 回	海外在住日本人の周産期や育児期における母子とその家族への支援を学ぶ。助産師として海外在住日本人の支援をするために実際の活動を講義や文献を通して学ぶ。			
	第 23 ～ 24 回	助産師として外国人への支援をするために文献または参加観察の助産演習を通して、在日外国人の現状を把握し課題を検討する。			
	第 25 ～ 39 回	NICU・GCU に入院中の児とその家族に対するケアの実際を施設において参加観察を通して学ぶ。ハイリスク妊娠予防のヘルスケアシステムの現状を把握し課題を検討する。			
	第 40 ～ 52 回	助産マネジメントの視点から、病院において安全・安楽な出産環境を提供するために妊娠から育児までの助産業務管理について参加観察の助産演習を通して助産システムの現状を把握し課題を検討する。			
	第 53 ～ 60 回	課題にそった研究計画書の作成。			
	第 11 ～ 60 回	<u>教育者・研究者養成コース</u> 研究課題に関する文献から先行研究を分析する。また、参加型観察やプレテストの計画立案を検討する。			
	<u>高度実践看護職養成コース</u> 女性の生涯に関わるウイメンズヘルス、リプロダクティブヘルス全般、周産期における助産ケアから多様なニーズに対応できる助産活動の実践や課題を行う。 <u>教育者・研究者コース</u> 女性の生涯に関わるウイメンズヘルス、リプロダクティブヘルス全般、周産期における助産活動において、理論、EBM に基づいた支援技術の開発、助産学の学問体系を構築していくための研究計画を作成する。				
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーションやディスカッション 40%				
履修にあたっての留意点	免許取得コースと研究・教育養成コースは、各自の課題に添って授業内容を行なう。				
備 考	教員連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母性看護・助産学実習				
担 当 教 員	◎曾我部 美恵子、松尾 真璃、渡辺 和香、夏目 奈緒子、専門分野教員				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	選択	単 位 数・時 間	4単位・120時間	授 業 形 態	実習
授 業 の 目 標	大学院生の自分の関心、課題に係る施設において、教員および助産師等と協働し課題に沿って実習を実施する。助産介入とその有効性の検証方法について学ぶ。また、国際的な助産活動に参加し、異文化社会の母子および家族への支援を検討する。あるいは、研究課題をふまえた実習とする。 実習は下記1)～5)を組み合わせ・選択で行う。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 60 回	1)ほっこ助産院 助産院において、安全・安楽・快適な出産環境を提供するためのマネジメントができる能力やリーダーシップを学ぶ。また、助産管理や周産期管理システムの連携について、助産師が自律するための能力を習得する。 2)ほっかぽか助産院 地域における助産師活動を通して、女性と子育て支援の実際と課題、関連機関との連携、育児支援の組織作りについて学ぶ。 3)ハワイ州の出産風俗・文化、社会のあり方や価値観などの母子保健活動や母子とその家族の支援の現状を視察し、日本の出産文化と比較しながら助産の多様性を学ぶ。 4)日本における助産所や地域の産後ケア実施施設、関連職種との協働システムにおいて助産師が専門性を発揮している施設における助産師活動を学ぶ。 5)自らの研究課題をふまえた実習を日本の施設内で行う。			
成績評価の方法	実習レポート60%、実習態度、実習内容、記録、カンファレンス40%を通して総合的に評価する。				
履修にあたっての留意点	実習開始前に自分の課題や研究課題を明確にしておくこと。実習は課題に沿うような施設において行うため、上記限りでない。実習施設においては施設長、指導者・スタッフが指導にあたる。				
備 考	教科書は特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。 教員の連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	生殖機能論				
担 当 教 員	◎ 曾我部 美恵子、濱西 正三				
履 修 学 年	1 年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	生殖に関する母子の基礎科学として、リプロダクションに関する解剖・生理、人間の性と生殖の概念、性の多様性や性をめぐる諸問題について学ぶ。 また、生殖の形態と機能や、生殖に関連する疾患、母子の免疫と疾患、母子の感染、女性のライフサイクル各期におこる疾患、検査、治療、予防について学ぶ。				
授 業 の 内 容	第 1 回	人間の性と生殖の概念と助産			
	第 2 回	リプロダクションに関する解剖・生理			
	第 3 回	生殖生理に関する機能、形態の機能			
	第 4 回	性の行動と機能			
	第 5 回	母子と免疫			
	第 6 回	母子と感染			
	第 7 回	女性のライフサイクル各期におこるおもな疾患			
	第 8 回	リプロダクションに関する検査			
成績評価の方法	定期試験 100%				
履修にあたっての留意点	女性の生殖機能を身体的に理解するための基本となる科目である。 助産師国家試験に関わる基礎知識を学習する科目であるため、予習、復習をして理解する。 配布資料、テキスト、参考図書を活用し自己学習をしながら受講する。				
備 考	助産学講座 2 基礎助産学 [2] 母子の基礎科学 医学書院 最新版 助産師基礎教育テキスト第 2 巻 女性の健康とケア 日本看護協会出版会 最新版 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 改訂第 4 版 メディックメディア 病気がみえる vol.10 産科 改訂 4 版 メディックメディア その他 参考書については授業中に適宜紹介する。 教員の連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産学概論				
担 当 教 員	◎ 宮本 政子				
履 修 学 年	1 年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	助産の概念、助産についての歴史的発展、助産師の専門性やケアの理念、助産師業務に関連する法律、助産実践の倫理、女性の健康と人権、助産師の責務・今後の展望について学ぶ。				
授 業 の 内 容	第 1 回	助産の概念の変遷と助産学			
	第 2 回	助産の歴史			
	第 3 回	助産師の専門性と業務			
	第 4 回	助産業務と関連法規			
	第 5 回	助産師と倫理①			
	第 6 回	助産師と倫理②(GW・発表)			
	第 7 回	女性の健康と人権（意思決定支援）			
	第 8 回	助産の歴史発表・助産師の責務と展望（まとめ）			
成績評価の方法	レポート評価（助産に関連する歴史）60%、プレゼンテーション（レポートに関連するテーマについて発表・討議・授業参加など）40%				
履修にあたっての留意点	助産学の基本となる授業内容であるため、積極的に学習して助産について理解し、自分の考えを深める。				
備 考	助産師基礎教育テキスト 第1巻 助産概論 日本看護協会出版会 助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院 その他 参考書については授業中に適宜紹介する。 教員の連絡先：m.miyamoto@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産文化・国際論				
担 当 教 員	◎ 曾我部 美恵子、小笠原 百恵、大原 良子、谷口 初美、吉野 八重				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	妊娠・出産に際して、人類は多様な出産文化を編み出してきた。助産の多様性を学ぶことで、現在の病院出産の是非について理解を深める。また、海外の出産文化、社会の生活様式や子育て支援などの特徴を学ぶ。さらに、国際母子保健の実際と助産師活動の課題について学ぶ。				
授 業 の 内 容	第 1 回	出産に対する伝統的見方と近代医学的見方			
	第 2 回	お産の歴史と文化，産育習俗			
	第 3 ～ 4 回	オーストラリアにおける出産文化と助産師の教育と役割			
	第 5 ～ 6 回	世界の母子保健の状況と課題 ICM に関与する日本の助産師の海外活動			
	第 7 ～ 8 回	リプロダクティブヘルスと国際母子保健活動			
成績評価の方法	課題レポート 100%				
履修にあたっての留意点	出産文化を理解し、現在の病院出産や子育て支援の是非、助産師の国際活動についての理解を深める。 非常勤講師の体験した助産師活動に関する講義内容も含まれる。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第 1 巻 助産学概論 日本看護協会出版会 最新版 助産学講座 1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院 最新版 参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産教育論				
担 当 教 員	◎宮本 政子				
履 修 学 年	1 年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	わが国の助産師教育の歴史的変遷、現行の助産師教育制度、関連する法律、諸外国の助産師教育を学び、今後の助産師教育の展望について考察する。				
授 業 の 内 容	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	現行の助産師教育の概要 保健師助産師看護師法と助産師教育の変遷① （第二次世界大戦前） 保健師助産師看護師法と助産師教育の変遷② （第二次世界大戦以降） 助産師教育のカリキュラム①我が国のスタンダード 助産師教育のカリキュラム②専門教育・卒後教育 助産師教育のカリキュラム③諸外国の助産師教育・ICM 世界基準 世界の助産師教育（課題発表） 助産師教育の展望・課題			
成績評価の方法	課題レポート（興味ある外国の助産師教育について）60%、プレゼンテーション（レポート課題の発表・討議・授業参加など）40%				
履修にあたっての留意点	我が国及び諸外国の助産師教育の現状を自ら探求し、助産師のあるべき方向性を考える。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第1巻 助産概論 日本看護協会出版会 助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院 参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：m.miyamoto@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母子家族論				
担 当 教 員	◎ 小笠原 百恵				
履 修 学 年	1 年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	家族の形成プロセスを歴史的に検討し、現代の家族関係と家族支援のあり方を心理的援助も含めて検討する。				
授 業 の 内 容	第 1 回	家族の概念・家族機能の役割と変化			
	第 2 回	家族関係の発達と課題①			
	第 3 回	家族関係の発達と課題②			
	第 4 回	母親・父親・子どもと社会			
	第 5 回	家族・地域のネットワークと現代日本の子育て支援①			
	第 6 回	家族・地域のネットワークと現代日本の子育て支援②			
	第 7 回	家族看護の展開①			
	第 8 回	家族看護の展開②			
成績評価の方法	課題レポート 80%, プレゼンテーション 20%				
テ キ ス ト	助産学講座 4 基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 医学書院 最新版 家族看護学 理論と実践 日本看護協会出版会 最新版				
参 考 図 書	講義内で適宜提示する。				
履修上の留意点	現代社会の母子とそれを取り巻く家族の支援を考える授業であるため、事前に新聞記事や雑誌、様々な図書から情報収集して授業に参加する。				
備 考	教員の連絡先：m.ogasawara@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	母子保健行政論				
担 当 教 員	◎ 尾筋 淑子				
履 修 学 年	1 年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	母子およびその家族とともに、司法・立法・行政の諸機関と連携を図り、母子およびその家族の健康を増進する保健政策の現状課題の明確化、母子保健の動向と基礎整備について理解し今後の方向性について考察する。				
授 業 の 内 容	第 1 回 第 2 回 第 3 ～ 4 回 第 5 ～ 6 回 第 7 回 第 8 回	母子保健に関する法律 母子保健の歴史 現代の母子保健の指標 母子保健に関する動向と諸制度 母子保健の基盤整備 母子保健政策の現状と課題			
成績評価の方法	定期試験 80%、プレゼンテーション 20%				
履修にあたっての留意点	社会の母子保健の動向について関心のある資料を収集して授業に参加すること。 母子保健の主なる統計、国民衛生の動向を活用し必要なデータを収集すること。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第1巻 助産学概論 日本看護協会出版会 最新版 助産学講座1 基礎助産学 [1] 助産学概論 医学書院 最新版 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 最新版 その他 参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産診断・技術学特論Ⅰ（妊娠期）				
担 当 教 員	◎尾筋 淑子、神谷 映里、濱西 正三				
履 修 学 年	1 年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	妊娠期における母子および家族に必要なケアを提供できるために、妊娠の成立と診断、維持機構、生理的適応過程、心理的特性等の基礎的な知識を学ぶ。また、妊娠期における正常からの逸脱徴候のアセスメント・合併症妊娠を含むハイリスク妊娠の診断・検査・治療（薬剤・手術）、胎児の健康状態把握に必要な超音波断層法の取り扱い、分娩監視装置のデータ判読について学ぶ。				
授 業 の 内 容	第 1 回 第 2 ～ 5 回 第 6 ～ 10 回 第 11 ～ 15 回	助産師が行う妊娠期のケア 妊娠の心理社会的側面のアセスメント 妊娠の生理と確定診断 妊娠に伴う全身の変化とマイナートラブル 妊娠経過に適応したケア 妊娠の日常生活におけるケア 妊娠経過と産科学的診断：妊娠期の異常 合併症妊娠を含むハイリスク妊娠の検査・診断・治療 妊娠期に用いる薬剤、産科手術 分娩監視装置による諸検査とデータ判読 胎児発育の診断、健康状態把握に必要な超音波断層法 超音波診断技術と胎児モニタリングの実際			
成績評価の方法	定期試験 100%				
履修にあたっての留意点	妊娠期における母子および家族に必要なケアを提供するための基礎的な知識からアセスメントし、技術を習得できるように必要な知識を学ぶ。また、妊婦と胎児の健康状態を判断するために妊娠期の正常、異常の知識を習得する。予習・復習をしながら学習を進める。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会 最新版 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 医学書院 最新版 目で見える妊娠と出産 馬場一憲 文光堂 その他 教材、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅰ（妊娠期）				
担 当 教 員	◎ 尾筋 淑子、永峰 啓子				
履 修 学 年	1 年（前期）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位・60 時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	妊娠経過における妊婦と胎児の健康状態、異常の早期発見と予防のための助産過程が展開できる能力を習得する。 妊娠の診断、健康診査の技術、正常経過を維持できるための日常生活への援助技術を習得する。 また、妊婦や家族が出産や育児に向けて心身および環境の準備が整えられるよう個人及び集団への出産準備教育の企画、実施・評価の方法を習得する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 14 回	妊娠各期の助産過程の展開 事例を用いて情報収集、アセスメント、助産診断、助産計画の立案、実施・評価を行う 妊婦の定期健康診査技術 マイナートラブルのアセスメントとケア 日常生活へのケア			
	第 15 ～ 30 回	妊娠各期に必要な保健指導、ケアの実際 出産準備教育の企画とデモンストレーション 親になる準備への支援 保健指導案の作成			
成績評価の方法	課題レポート 80%、プレゼンテーション 20%				
履修にあたっての留意点	演習Ⅰでは、妊娠期の助産過程を展開する。助産診断技術学特論Ⅰの学習内容を復習し、学んだ知識がすぐに活用できるよう整理したうえで臨む。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第4巻、妊娠期の診断とケア、日本看護協会出版会 最新版 助産学講座5、助産診断・技術学Ⅰ、医学書院 最新版 助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期、医学書院 最新版 青木康子、実践マタニティ診断、医学書院 最新版 進 純郎他、助産師外来の健診技術、医学書院 最新版 我部山キヨ子他、助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院 最新版 その他 教材、テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産診断・技術学特論Ⅱ（分娩期）				
担 当 教 員	◎ 尾筋 淑子、曾我部 美恵子、永峰 啓子、濱西 正三				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	分娩期における母子および家族に適切なケアを提供するために必要な知識を学ぶ 分娩の機序、分娩の 4 要素、分娩による産婦や胎児へ及ぼす影響など、分娩経過に合わせた母子の健康状態をアセスメントし、適切なケアについて理解する。 分娩進行に伴う、正常からの逸脱の予測と予防のアセスメントについて学ぶ。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 7 回	助産師が行う分娩期のケア 分娩経過の診断に必要な知識 分娩経過の診断・アセスメントの視点 分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア			
	第 8 ～ 10 回	分娩介助の意義と原理 正常分娩介助法の原理（体位）			
	第 11 ～ 15 回	ハイリスク異常分娩時のアセスメントと支援 分娩期の異常・偶発疾患、異常のアセスメント 産科手術および産科的医療処置			
成績評価の方法	定期試験 100%				
履修にあたっての留意点	助産技術習得のために必要な知識であるため学習の積み重ねが重要。実習で活用するために自己学習ノートを作成する。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第 5 巻 分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会 最新版 助産師基礎教育テキスト第 7 巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会 最新版 助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 進 純郎他、基本分娩介助学、医学書院 最新版 進 純郎、正常分娩の助産術、医学書院 最新版 武谷雄二他監修、プリンシプル産科婦人科学 2 産科編、メヂカルビュー 最新版 その他 参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅱ（分娩期）				
担 当 教 員	◎ 尾筋 淑子、永峰 啓子、森沢 猛 専門分野教員				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	2 単位：60 時間	授 業 形 態	演習
授 業 の 目 標	分娩経過、母子の健康状態に応じた助産過程が展開できる能力を習得する。 分娩介助技術、自然分娩をするための体位の工夫、産痛緩和など根拠に基づく助産技術を習得する。また、出生直後の新生児に対するアセスメントとケア、母子の早期接触など愛着形成への支援について学ぶ。 産婦および新生児の正常からの逸脱状態における緊急時の援助について習得する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 12 回	分娩各期の診断、アセスメントの特徴と助産過程の展開 事例を用いて情報収集、アセスメント、助産診断、助産計画の立案、実施・評価を行う			
	第 13 ～ 25 回	分娩介助法、分娩介助技術 間接介助法 分娩進行に伴う、正常逸脱の予測と予防的ケア			
	第 26 ～ 28 回	出生直後の新生児のアセスメントとケア			
	第 29 ～ 30 回	新生児の救急蘇生法			
成績評価の方法	定期試験 50%、実技試験 50%				
履修にあたっての留意点	臨地実習で適用できる段階まで知識・技術を習得する。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第 5 巻、分娩期の診断とケア、日本看護協会出版会 最新版 助産師基礎教育テキスト第 7 巻、ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア、日本看護協会出版会 最新版 助産学講座 7、助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 進純郎他、分娩介助学、医学書院 最新版 進純郎他、正常分娩の助産術、医学書院 最新版 細野茂春 監修、日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト第 3 版、メジカルビュー社 その他 テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産診断・技術学特論Ⅲ（産褥期・育児支援）				
担 当 教 員	◎ 尾筋 淑子、小笠原 百恵、永峰 啓子、森沢 猛				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	育児期の母子と家族に対して、産褥経過に伴う身体的回復の診断、褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦のセルフケア能力を高めるケアを提供するための知識、褥婦の育児に必要な基本的指導について学ぶ。新生児から乳児の発達についてのアセスメントおよび育児支援を学ぶ。 家族計画の適切な方法、留意点について習得できる。 NICU とハイリスク新生児のケア・診断・治療について理解する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 8 回	産褥期の適応とアセスメント 褥婦のニーズとセルフケア 褥婦の健康生活に必要な基本的生活指導 家族計画の基本と実際			
	第 9 ～ 12 回	新生児の適応生理 新生児のニーズとケア			
	第 13 回	ハイリスク新生児をもつ家族への支援			
	第 14 ～ 15 回	NICU とハイリスク新生児のケア・診断・治療			
成績評価の方法	定期試験 100%				
履修にあたっての留意点	臨地実習で使う技術の理論であるため積極的に学習を進める。				
備 考	助産師基礎教育テキスト 第7巻、ハイリスク妊産褥婦新生児のケア、日本看護協会出版会最新版 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳児期、医学書院 最新版 その他、テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：y.osuji @kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥期・育児支援）				
担 当 教 員	◎ 尾筋 淑子、永峰 啓子、渡辺 和香、谷川 裕子				
履 修 学 年	1 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・45 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	産褥期、新生児期における身体的、心理的、社会的側面からの健康状態、異常の早期発見と予防のためのアセスメント、助産過程が展開できる能力を習得する。 退行性変化の促進、母乳育児への支援、日常生活への支援など根拠を踏まえた助産ケアを提供するための基本的技術を習得する。 新生児のフィジカルイグザミネーションを実施し、適応を促進するための適切なケアを習得する。褥婦、乳児の健康診査技術が習得できる。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 11 回	産褥期新生児期の助産過程の展開 事例を用いて情報収集、アセスメント、助産診断、助産計画の立案、実施・評価を行う 退行性変化促進へのケア 褥婦の健康診査に必要な技術、育児に必要な基本的指導と技術 褥婦のセルフケア能力を高める援助、退院に向けた指導			
	第 12 ～ 13 回	新生児のフィジカルイグザミネーション			
	第 14 ～ 21 回	母乳育児支援に関する妊娠中からの適切な授乳技術 乳房管理と乳房トラブルへの援助の実際 母乳哺育の継続支援 育児不安をもつ母親への支援 卒乳・断乳への援助 タッチケア：ベビーマッサージ			
	第 22 ～ 23 回	乳幼児の健康検査、アセスメントと援助			
成績評価の方法	課題レポート 70%、プレゼンテーション 30%				
履修にあたっての留意点	臨地実習で適用できる段階まで知識・技術を習得すること。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第 6 巻、産褥期のケア 新生児期・乳児期のケア、日本看護協会出版会 最新版 助産学講座 7、助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期、医学書院 最新版 助産学講座 8、助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期、医学書院 最新版 その他、テキスト、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：y.osuji@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	地域母子保健診断				
担 当 教 員	◎ 曾我部 美恵子、伊木 智子、淵元 純子				
履 修 学 年	1・2年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	地域母子保健の意義、現状と動向、地域母子保健行政の体系を理解し、新生児訪問や地域住民のネットワーク活動から、母子とその家族の住環境、職場環境、育児環境の改善に向けて社会や行政などへの情報提供と母子保健活動支援のための援助を学ぶ。 母子とその家族に関する健康指標を地域特性と関連付けてアセスメントし、淡路市または関心がある地域の母子保健診断をする。地域の健康レベルに応じて、健康診査や相談技法を用い妊娠期から育児期まで一貫して母子とその家族を支援する方法を学ぶ。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 5 回	地域母子保健の意義 母子保健の現状と動向 継続事例の母子訪問の展開と実際			
	第 6 ～ 7 回	助産師が行う新生児訪問 地域における育児支援の実際			
	第 8 ～ 11 回	地域母子保健行政の体系 母子保健活動を展開する場と特徴 地域母子保健活動の展開 母子保健活動展開のための他職種間の連携			
	第 12 ～ 15 回	淡路市または関心がある地域の母子包括支援事業 母子保健のためのネットワーク活動と地域診断 母親学級、新生児訪問、乳幼児健康診査など母子保健事業 地域母子保健診断と母子福祉事業支援の課題			
成績評価の方法	課題レポート 60%、プレゼンテーション 40%				
履修にあたっての留意点	地域における母子保健活動状況を学習することで、施設から地域への連携の課題を見出し、助産師活動を考察する。				
備 考	助産学講座 9 地域母子保健 医学書院 最新版 その他、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産管理				
担 当 教 員	◎ 曾我部 美恵子、岡本 ゆり、渋谷 あゆみ、谷川 裕子、松尾 真璃				
履 修 学 年	1・2 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位・30 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	助産管理の基礎概念と理念、周産期管理システム、周産期の医療事故とリスクマネジメント、また、助産院の東洋医学を取り入れた助産ケアについて学ぶ。 病院の産科病棟、助産師外来の助産業務管理、助産所における業務管理と運営、診療所における助産業務管理、助産所運営の試案作成、及び災害時の母子支援について学ぶ。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 5 回	助産管理の基本 周産期管理における質と安全の保障 日本の周産期医療システム 助産サービスの質管理 周産期における医療事故とリスクマネジメント 助産所運営の試案作成			
	第 6 ～ 7 回	助産院における東洋医学の助産ケア			
	第 8 ～ 9 回	助産院における助産業務管理			
	第 10 ～ 11 回	病院における助産業務管理			
	第 12 ～ 13 回	診療所における助産業務管理			
	第 14 ～ 15 回	災害時の母子支援			
成績評価の方法	課題レポート 80%、プレゼンテーション 20%				
履修にあたっての留意点	助産管理の概念、助産所や施設の多様な場における助産師業務管理と活動の特徴を学ぶ。災害時の母子支援に関心を持ち、情報を得て講義に臨むと学びが深まる。				
備 考	助産師基礎教育テキスト第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版会 最新版 助産学講座3 母子の健康科学 基礎助産学 [3] 医学書院 最新版 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 最新版 助産学講座10 助産管理 医学書院 最新版 その他、参考書は授業の中で適宜提示する。 教員の連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産学実習				
担 当 教 員	◎ 曾我部 美恵子、尾筋 淑子、神谷 映里、小笠原 百恵、永峰 啓子 専門分野教員				
履 修 学 年	1・2 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	11 単位：495 時間	授 業 形 態	実習
授 業 の 目 標	分娩開始となった事例を受けもち、妊娠期・分娩期に関する助産診断を行い分娩進行に応じて適切な助産技法を活用し支援する。母子ともに安全で、かつ女性とその家族が納得いく出産体験となり、女性の自然の力を最大限に発揮できるような助産ケアを習得する。 継続事例は妊娠期から育児期まで経過にあわせた助産診断と助産ケアを行い支援する。				
授 業 の 内 容	継続事例は主に分娩介助実習期間に出産予定の初産婦または経産婦 1～2 例を可能な限り妊娠期から分娩期・産褥期・児が生後 4 か月近くに至るまで通して受け持つ。周産期から子育て早期の期間を母子とその家族と良好な関係を築きながら受持ち事例に合わせて、1 か月健診や家庭訪問（褥婦・新生児訪問、乳児訪問）を実施し支援の実際を学ぶ。 分娩介助事例は、正常な経過をたどる分娩第1期の産婦を受け持ち、経陰分娩の分娩介助、退院するまでの早期産褥期の母子とその家族に必要な支援をする。 実習施設 兵庫県立尼崎総合医療センター 兵庫県立淡路医療センター たなべ産婦人科 実習期間 継続事例：2021 年 9 月 ～ 2022 年 6 月 分娩介助実習：2021 年 12 月 ～ 2022 年 2 月 *実習施設は分娩介助の例数により変更することがある。 *必要時、分娩介助実習前に「事前実習」を導入する。 *その他の事項および実習の詳細については、別途配布する「2021 年度助産学実習要項」による。 *経陰分娩は 10 例以上とする。				
成績評価の方法	分娩介助実習評価と提出された実習記録などにおいて総合的に評価を行う。				
履修にあたっての留意点	実習期間が長期にわたるため自己の健康管理に留意して実習に臨む。 施設によって継続事例の妊婦健診や家庭訪問は教員が担当する。 継続事例の分娩介助実習は、24 時間体制をとる場合がある。				
備 考	助産診断・技術学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、助産診断・技術学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、および分娩介助法の実技試験が合格していること。 テキスト、参考書は適時紹介する。妊娠・分娩・産褥期・新生児期の産褥期に使用した資料、自己学習ノートを活用する。 教員の連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	助産管理実習				
担 当 教 員	◎ 曾我部 美恵子、尾筋 淑子、永峰 啓子				
履 修 学 年	2 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	1 単位：45 時間	授 業 形 態	実習
授 業 の 目 標	助産院で行われている妊婦健康診査、出産、出産介助、助産ケア、産後の生活や新生児訪問、母乳育児支援、出産準備教室、産後ケアなど、助産院の特徴と母子とその家族の子育て支援について学ぶ。また、助産院における助産管理、病院との連携、母子の安全システムの実践について学ぶ。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 23 回	助産院で行われている妊婦健康診査、出産環境、出産介助、助産ケア、母子管理など助産院の特徴と母子およびその家族への子育て支援について見学または実施する。 また、助産院における助産管理、病院との連携、母子の安全システムの実践について学ぶ。 参加型実習を行い、実際の体験の振り返りと評価を行う。 実習施設：ぽっこ助産院			
成績評価の方法	出席、実習態度及び実習記録 50% 課題レポート 50%				
履修にあたっての留意点	実習前に自分の課題を明らかにしたうえで助産所実習に臨む。 助産学実習を修了してから助産所実習を行うことが望ましいが、修了しない場合でも課題を明らかにして助産管理実習に入ることが可能である。				
備 考	助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会 出版会 最新版 助産学講座 10 助産管理 医学書院 最新版 その他、参考文献は適時提示する。 教員の連絡先：m.sokabe@kki.ac.jp				

授 業 科 目 名	看護学特別研究				
担 当 教 員	◎ 江川 隆子、小平 京子、笠岡 和子、奥津 文子、宮本 政子 曾我部 美恵子、神谷 千鶴、下舞 紀美代、伊木 智子、古川 秀敏、大谷 益子				
履 修 学 年	1・2 年（通年）				
必修・選択の別	必修	単 位 数・時 間	6 単位・180 時間	授 業 形 態	講義
授 業 の 目 標	学生が選択した看護分野の研究課題を明らかにし、研究領域の文献レビュー、テーマの選択、研究の目的、概念枠組の明確化、研究方法を選択し、研究計画を立案する。さらに、その研究計画に沿ってデータ収集、結果の分析、考察をする。この一連の研究プロセスに基づき修士論文を作成する。				
授 業 の 内 容	第 1 ～ 9 0 回	1. 研究計画書の作成 1) 研究課題の明確化 2) 文献レビュー 3) 研究の意義の明確化 4) 研究方法の選択 5) データ分析方法の決定 2. 研究倫理委員会申請書の作成 3. 研究計画に基づくデータ収集あるいは介入技術等の開発 4. データの分析、技術開発等のまとめと考察 5. 論文作成 6. 発表			
成績評価の方法	審査基準に基づき、審査によって決定する。				
履修にあたっての留意点	研究活動に対するグループ討議および個人面接によって進める。				
備 考	参考文献は別途提示する。				



関西看護医療大学大学院
看護学研究科

〒656-2131 兵庫県淡路市志筑 1456-4
TEL 0799-60-1200 FAX 0799-60-1201
E-mail kyoumu@kki.ac.jp

